

日本語を母語としない生徒のためのオンライン日本語教室
令和8年度実施要項

公益財団法人埼玉県国際交流協会（以下、「協会」）では、以下の内容で日本語を母語としない生徒のためのオンライン日本語教室を実施します。

1 目的

日本語を母語としない生徒等が、ICT環境を活用した双方向的に行われるオンライン日本語教室に参加することで、学校生活における日本語でのコミュニケーションを少しでも円滑に行えるよう支援し、より積極的に日本社会と関わり安心して学習に取り組める姿勢を育むことを目指します。

2 事業内容

日本語指導が必要な生徒に対してオンラインでの日本語指導を実施します。

3 実施期間

令和8年7月から令和9年2月まで

ただし、上記通常の授業とは別に、6月頃オリエンテーションを実施します。

4 実施日程等

(1) 回数：年間4ターム全22回、水曜日に実施

(2) 実施日：「オンライン日本語教室年間予定表」のとおり

(3) 時間：Aコース 16：00～16：50（50分）

Bコース 17：00～17：50（50分）

(4) その他：上記22回とは別に「特別授業」数回を予定。詳細は別途案内予定。

5 対象生徒

小学校（又はそれに相当する課程）を修了した中学校在籍相当の年齢（12歳から18歳くらいまで）の生徒で、高校進学や日本での生活継続を希望する人。中学校在籍の有無は問いません。なお、高校に在籍している生徒は対象としません。

下記の日本語レベル1又は2の生徒、又は<JSL評価参照枠>のステージ1～2の生徒を優先的に指導します。

それ以上のレベルの生徒については、特別授業（例：3年生を対象とした受験対策面接練習）への参加を案内することがあります。

(聞くこと・話すこと)

レベル1：短く、簡単な質問に対して、短い発話で返すことができるが、身近な語彙が未習だと感じる生徒

レベル2：日頃から耳にする表現を用いると短い発話で返すことができるが、日常会話ができるレベルに達していない生徒

(読むこと・書くこと)

レベル1：ひらがなとカタカナの読み書きが定着し始めた生徒

レベル2：ひらがなとカタカナの読み書きが定着し、よく目にする漢字を読んだり、書こうとしている生徒

<JSL 評価参照枠>

ステージ	1学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	支援の段階
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	支援付き 自律学習 段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	個別学習 支援段階
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	初期支援段階
1	学校生活に必要な日本語の習得がはじまる	

6 定員

40名程度

レベル別のグループに分かれて実施し、1クラスは5人程度とします。

7 指導内容及び学習目標

(1) 指導内容

中学校生活で必要な日本語を中心とした「学習内容リスト」(別紙)に関連した語彙の習得及び会話練習を通じた日本語力の養成

(2) 指導員

日本語指導の経験が豊富な指導員の中から協会が選定

(3) 学習目標

日本語に触れる機会、日本語の発話機会を少しでも増やすことにより、日本語学習に対する意欲・動機を高めることを目的に実施します。

また、他校の外国ルーツの子どもとの出会いを通じて、自分の考えや気持ちを表現することに積極的になれることを目標とします。

また下記 a から e の中で、生徒が希望する内容を参考として指導を行い、語学習得レベルの目標は設定しません。

- a 日本語で会話する機会として
- b 日本語（文法、文型、表現）の学習
- c 日本語（ひらがな、カタカナ、漢字）の学習
- d 外国ルーツの生徒との出会いの場として
- e 日本語学習へのモチベーション維持

8 実施手順

- (1) 授業を欠席する場合は、各授業日の正午 12 時までに、各学校又は家庭から協会へ連絡をしてください。
- (2) 授業当日は、開始 5 分前には「カメラオン・マイクオフ」の上、入室します。
- (3) その他 PC の操作等については、別添の「参加の手引き」を参照してください。
- (4) 授業終了後は、授業内容等について、各学校又は家庭へ「まとめ」を送ります。
- (5) 各授業の「まとめ」（次回までの宿題含む）を参考に、学校や家庭等での学習に取り組むとともに、学校での活動等に活用してください。

9 申し込み

タームごとの申し込みとなります。（年間スケジュールは、年間予定表を参照。）
各タームの定員は 40 名です。申し込み後のレベルチェックにより、参加の可否が決定します。

なお、定員に余裕がある場合は、希望により継続して参加することも可能です。

10 留意事項

- (1) 指導員への報償費は協会が負担します。
- (2) オンライン指導に必要な機材（PC、イヤホン等）及び備品（用紙、サインペン等）については各学校及び家庭で準備をお願いします。
なお、授業に集中できる環境とするため、マイク付きヘッドフォンの使用を推奨します。同じ学校から複数の生徒が参加する場合等、学校による準備が難しい場合には、貸し出し（返却時送料のみ負担）も行っています。
- (3) 各学校及び家庭では、生徒が集中して受講できる場所を確保するとともに、生徒が使用する PC 等の操作補助をお願いします。（なお、「参加の手引き」をもとに、生徒だけで受講できるよう各学校及び家庭で工夫をしていただいても構いません。）

- (4) 指導に使用する教材、資料については協会が用意しオンライン上に表示します。
印刷の必要がある場合は各学校及び家庭にて対応をお願いします。
- (5) タームの途中でレベルが合わない（難しすぎる、簡単すぎる等）と感じた場合は、クラスの変更について御相談ください。生徒の様子をみて対応いたします。
- (6) 無断欠席、または体調不良以外の理由による欠席が連続3回となった場合は、そのタームの受講ができなくなることがありますので、ご注意ください。